

発行 聖徳大学短期大学部
総合文化学科
住所 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550
TEL 047-365-1111 (大代表)
https://faculty.seitoku.ac.jp/arts-sciences/

BISOCIE

Become Independent in Society (社会的自立)

2021年1月25日 NO.13-F-I

グループ名 よつばのクローバー

コース フードマゼンタ、図書館司書・IT、国際観光・ホテル

主な内容

ときわ平こども食堂での活動報告

ときわ平こども食堂に行ってきました！



子ども食堂とは、子どもやその親、地域の人々に対し、食事や温かな団らんを提供する活動だ。私たちのグループは、11月と12月の2回に渡り、松戸市内のときわ平こども食堂に参加させていただき、遊びコーナーを担当した。

場所は聖パウロ教会で開催時間は11時半～13時半。いつもはご飯を食べた後にゆっくり遊んでもらうのだが、現在は新型コロナウイルスの影響でお弁当やパンなどを配布する形に変更になり、感染対策をしながら開催された。

Autumn イベント

11月7日(土)の子ども食堂では、ハロウィンのネームプレートとオセロひっくり返しゲームの2つのイベントを企画した。イベントを企画する際に、参加してくれた方々に季節の行事を楽しんでもらいたいと思い、行事に関するイベントを取り入れた。また、子ども食堂が野外での開催だったため、広く場所を使うことができる遊びも企画した。

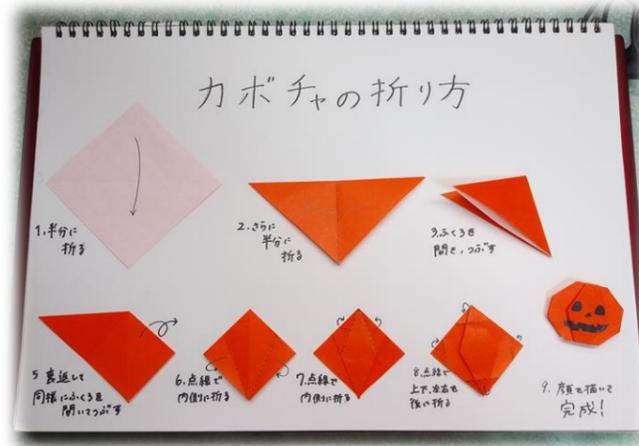
ネームプレートでハロウィン気分

本来ハロウィンは10月のイベントだが、初めての子ども食堂でのイベント企画だったため分かりやすいイベントを選んだ。ハロウィンのネームプレートは、オバケとカボチャの2種類を折り紙で折り、それぞれ違った表情を描いて約70個準備した。初めは折り紙を折ることに慣れていなかったが、たくさん作っていくうちに、早く丁寧に作ることができるようになった。

子ども食堂当日は、好きなネームプレートを選んでもらい、その場で名前を書いた。名前を聞いたり、名前を書くペンの色を選んでもらったりと、コミュニケーションを取ることで子ども食堂に参加する人たちと関わることができて良い経験となった。また、子どもや保護者だけでなくボランティアスタッフの皆さんにもネームプレートを付けていただき、多くの方に喜んでもらうことができた。初めての子ども食堂での企画だったが、自分たちも楽しみながら参加することができて良かった。



完成したネームプレート



カボチャの折り方

オセロの人間バージョン…?

“オセロひっくり返しゲーム”とは？

ピンクと水色の2チームに分かれて、相手チームの色のオセロを自分のチームの色にひっくり返して遊ぶゲームだ。

色は2色あればピンクと水色でなくてもいい。広場に散らばっているオセロを制限時間内にひっくり返し、オセロの色が多いチームが勝ちとなる。今回は15秒という短時間でいったが、意外とハードである。

ゲームで使うオセロの作り方

必要なもの：平たい段ボール(奇数枚)、好きな色画用紙(2色)
コンパス、カッター、はさみ、両面テープ

1. 平たい段ボールを直径30cmくらいの大きさに丸く切り抜く
2. 色画用紙を必要な分だけハートに切る
3. ハートに切った色画用紙を段ボールに貼り付ける



裏はピンクのハート

<作る時の注意点>

- ・参加人数や場所によって作る個数は変えよう
- ・カッターやはさみで怪我をしないように気をつけよう

実際に遊んでみた！

このオセロひっくり返しゲームは11月7日(土)の子ども食堂で実施した。3歳くらいの小さな子どもから中学生まで、幅広い年齢の子どもが参加してくれた。ルールをすぐに覚えて何度も遊んでくれる子どもや、友達と一緒に参加してくれた子どももいた。

元は子どもたちを楽しんでもらう予定が、いつの間にか企画した私たちも一緒に楽しんでた。このオセロひっくり返しゲームの執筆担当である筆者が、中学生の男の子に指名されたのだ。「私は遊んでもいいの、私で大丈夫か？」と戸惑ったが、断るのも申し訳ないと感じ、一緒に遊ぶことにした。やるなら勝ちたい！と挑んだが、結果は大差で負けてしまった。やはり、普段から運動不足の私が育ち盛りの中学生男子に勝つのは難しかったと痛感した。それでも走って遊ぶ機会が減っていた私は新鮮で楽しむことができた。後日、脚全体が筋肉痛に悩まされたのだが。(笑)

ゲームが終わったあと、参加賞に折り紙で折った手作りのメダルをプレゼントすると、もらった子どもたちはみんな嬉しそうでもとてもいい笑顔だった。



手作りのメダル

完成したオセロ

Winter イベント

今年度初！屋内で企画を開催

12月の子ども食堂でも、季節の行事に関する企画を2つ用意した。今回は11月とは違い、屋内で企画を実施した。屋外で体を動かして遊ぶのも楽しかったが、屋内で遊ぶのも違う楽しさがあった。また、お借りした会場はクリスマスと関連の深い教会であり、そんな場所でクリスマスの企画を教会のイベント以外で行えることはめったにないことであると感じ、とても貴重な体験になった。

ひと足早いクリスマス!!

1つ目の企画であるクリスマスの装飾では、クリスマスの気分を味わってもらうために、紙コップとトイレットペーパーの芯、そして折り紙で作ったクリスマスツリーやリボンや装飾用のモールを使い、もう1つの企画のカード作りコーナーの飾り付けを行った。飾り付けを行った途端、会場が明るくなり、クリスマスの雰囲気が一気に出て、わくわくした気持ちになった。

世界に1枚だけのオリジナルクリスマスカード

2つ目の企画のクリスマスカード作りでは、サンタさんなどが描かれた2種類のポストカードに自由に色を塗り、オリジナルのクリスマスカードを作れるようにした。参加してくれた女の子は、次はどの色を塗るか楽しそうに考えながらカードを制作し、1枚目が終わると続けて2枚目にも挑戦してくれた。子どもたちは、はじめは緊張している様子だったが、だんだんと打ち解けて笑顔を見せてくれた。そして、当初は来てくれた方へ向けた企画だったが、私たちも地域のボランティアの方と楽しく交流をしながらカード作りをし、それぞれの色のクリスマスカードが出来上がった。

クリスマスツリーの作り方

- 必要なもの：紙コップ (2つ)
トイレットペーパーの芯 (1つ)
様々な大きさに丸く切った折り紙
はさみ
ボンド
のり
シールやリボンなど (飾り付け用)



1. のりで紙コップに折り紙を貼り付けていく
2. 紙コップの口の部分に、同じ間隔で8か所に、4cm位の切込みを入れる
3. 切った部分を手で外側へ反らせる
4. 片方の紙コップの側面 (図の青い部分) にボンドを塗り、2つの紙コップをくっつける
5. トイレットペーパーの芯のふちにボンドを付け、4で作った紙コップにくっつける
6. ツリーにシールやリボンなどで自由に飾り付けをする



お土産のカードづくり

聖徳からの贈り物

10月にハロウィンカード、12月はクリスマスカードを作成した。その他に誕生日カードも作成した。

Thanks カードは、来てくれた子どもたちに感謝の気持ちを込めて贈る季節に合わせたメッセージカードだ。

誕生日カードは、開催した月が誕生月の方にはその場でお名前とメッセージを入れて、ハッピーバースデーの歌と共にプレゼントした。

ハロウィンカードは、イラストのデザインを探し、見つけたイラストをハガキにプリントし、1枚1枚手書きで絵やメッセージを入れた。イラストのサイズがハガキに合わなかったり、手書きで何枚も書くのは大変だったりしたが、当日喜んでくれた子どもたちやボランティアの方の笑顔を見ると、手書きで書いて良かったと心から思った。



子ども食堂のボランティアスタッフの紹介

～子供たちを楽しませて続けてくれる地域ボランティア～

私たちが参加した子ども食堂は松戸の地域ボランティアの方々が発起している。以前は飲食店を借りて子ども達にご飯を振る舞っていたが、新型コロナウイルス感染拡大によりいったん休止され、9月から再開することとなった。また、コロナウイルス対策として、お弁当・お菓子などを配り、持ち帰ってもらう形式となった。まつぼっくりに飾りをつけてクリスマスツリーを作るイベントや、手作りの物を配るなど、子どもたちや来てくれた方々を楽しませるさまざまな工夫がある。今年はコロナウイルス感染拡大の影響によりできることが限られてしまったが、アルコール消毒や検温などの感染対策をしっかりと行い子どもたちのために活動を続けてくれている。

私たちが伺った際には、学生とお揃いのネームプレートを付けてくださり、お誕生日カードを渡す時には一緒に歌を歌ってお祝いをしてくださった。おみやげに焼き芋も頂き、とても嬉しかった。子ども食堂に来てくれた方だけでなく地域ボランティアの方々とも交流ができたことはとても良い経験になった。



編集後記

子ども食堂に参加し、普段なかなか交流のない子供たちや地域の方と交流をすることができ貴重な経験になりました。
(高安)

子ども食堂を通じて、地域の方との関わりが大切さ・温かさを学べて、この授業を選択して本当に良かったです。
(飯嶋)

たくさんの方々喜んでもらってとてもやりがいを感じました。貴重な経験をする事が出来て良かったです。
(藤田)

今回の活動を通して地域の方々や子供たちとたくさんコミュニケーションをとることができました。コロナの影響がある中で出来ることを見つけ準備をする過程も楽しかったです。
(横山)

新聞を作りながら子ども食堂をもう一度振り返ることができ、地域ボランティアや来てくれた方々との交流、食との繋がりがやがたみを感じました。
(吉原)

食堂のスタッフさんをはじめ、たくさんの方のおかげで、楽しく活動できました。ありがとうございました。
(平根)

子ども食堂に参加して子どもたちや地域の方と交流出来た良かったです。
(鈴木)

この新聞をきっかけに子ども食堂に関心を持つ人が増えて、松戸市の活性化に貢献出来たら幸いです。
(吉仲)